



先生方の「もしかしたら…」という気付きが
不登校を未然に防ぐ大きな力になります！



1. 不登校の未然防止へ向けて

学校での取組（未然防止）

- 魅力ある学校づくりの4視点
「①安心②所属③承認④自立」
- 「勇気づけの教育」の推進
(自己肯定感の高まり)
- わかる授業と支持的風土づくり

家庭の役割の確認

- (1) 基本的な生活習慣の確立
 - ・早寝・早起き・朝ごはんの定着
 - ・「Go 家運動」「愛の声かけ運動」の推進
- (2) 家庭学習の習慣化
- (3) 怠学を許容する（安易に病欠にする）保護者の啓発
- (4) 常日頃から保護者とコミュニケーションを図る。
 - ・子どもががんばりやよさについて情報交換を
- (5) スマホ・携帯の利用は夜9時まで！
 - ・家庭でのルールづくり・フィルタリング

不登校の予防チェックリスト

- 【学校で】
 - 体調不良での遅刻・早退が多くなってきた。
 - 月3日以上欠席があった。
 - 保健室に行くことが多くなった。
 - 給食を食べる量が著しく減少（増加）した。
 - 学習意欲が低下した。
 - 特定の教科のある日に欠席・欠課がある
 - 独りであることが多くなった。
 - 教室以外で過ごすことが多くなった。
 - からかわれたり仲間はずれにされたりすることがある。
- 【家庭で】
 - 登校前に体調不良を訴える
 - 「学校に行きたくない」と訴える
 - 朝起きられないで遅刻する

家庭で・学校で…
普段からのチェック

※ひとつでもチェックのついた子は
要観察児童生徒だと捉えてください。

2. 不登校児童生徒への支援

児童生徒理解

(1) 家庭訪問のポイント

- ① 組織的・計画的な家庭訪問を・・・
管理職（校長先生・教頭先生）からのサポート
小中アシスト支援員、スクールソーシャルワーカーの活用
生徒指導主任・教育相談担当・養護教諭等の連携
- ② 学校復帰プランの策定
一人一人にあった復帰プランを設定する。
スモールステップでもOK→成功体験の積み重ねを。
- ③ 休むことが自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つ
事がある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や
社会的自立へのリスクがあることも伝える。
- ④ 家庭訪問で児童生徒の在宅（安否）確認をする。在宅（安否）確認ができない
場合は児童相談所へ通告する。

(2) 教育相談で信頼関係を築く

- ① 受容と共感で。過度のプレッシャーを与えない。
- ② ゴールを自分で決めさせる。
- ③ 発達障がい疑い → 特別支援の視点での対応を（カウンセラー・臨床心理士との面談・相談も考慮する。）
教師が判断を誤れば、二次障害で不登校になるケースもあります。

(3) 不登校児童生徒の評価

- ① 学校で方針を検討し共通確認しておく。
- ② 評価についての学校方針を保護者へ事前に説明する。
- ③ 学習意欲に応える、自立支援の観点での評価を
- ④ 賞賛「よくできました」「すばらしいですね」等のメッセージを必ず届ける。
どんな子供でも教師に褒められると嬉しくなります。

丁寧な初期対応が大切です！！

早期対応の流れ（例）

- 「まずは様子を見てみましょう」では長期欠席に移行する恐れがあります。
連続欠席3日（断続欠席3日も含む）までの丁寧な初期対応が大切です！
校内で対応方針を整理しておきましょう。

欠席1日目

担任による家庭への電話連絡を行う。
・欠席の理由把握とともに、明日の連絡等を伝える。
(養護教諭等からの情報共有)

欠席2日目

学級担任等による家庭訪問を行う。
・家庭からの連絡に関わらず家庭訪問を行う。
(学年主任・学年生徒指導、学年教育相談担当・小中アシスト相談員等との連携)

欠席3日目

校内でチームを組んで組織的対応を行う。
・一覧表を作成し、各状況に応じてケース会議を開催し、支援を行う。
(管理職、学年主任、養護教諭、生徒指導主任、SC・SSW・臨床心理士等、小中アシスト相談員)

次のステップへ

- 関係機関との連携を図る。
- ・教育委員会（学校教育課）：82-4701
- ・青少年センター：82-1116
- ・あやばに学級：83-6388
- ・こども家庭課：87-0771
- ・沖縄県中央児童相談所八重山分室：88-7801

保護者との連携

(1) 保護者とのコミュニケーションのポイント

- ① 保護者の話をしっかり聞く。
話をしっかり聞いてくれる先生だと受容感が生まれ、信頼関係が築きやすくなります。（傾き・相槌）
- ② 一方的なアドバイス、批判はしない。
最初から学校の提案を押し付けたりしない。
- ③ 不登校を子どもや親の養育態度と決めつけない。
- ④ 「今」だけではなく「数年後を見据えて」がポイント。

(2) 保護者と連絡が取れない場合

保護者との関わりを見直し、関係機関と連携しつつ
支援方法を検討しましょう。
(SSW活用や関係機関との連携)

(3) 教育相談の充実

- ① SC・SSW、臨床心理士、教育相談支援員、生活指導員との連携

学校組織の強化・連携

(1) 組織対応

- ① 不登校解決へ向けて目標を設定
- ② 管理職のリーダーシップとバックアップ
- ③ 教育相談支援員、子ども・若者相談員、ユースアドバイザーとの連携

(2) 教師間の連携の必要性

- ① 一人の先生だけで抱え込んでいないか。
- ② 複数の視点で多面的な角度から児童生徒への支援を
- ③ 支援・ケース会議等の開催及び支援計画作成

(3) 居場所づくり

- ① 部分復帰から完全復帰へ スモールステップで・・・
- ② 相談室、保健室、図書館、個別支援室、地域活動等
- ③ 青少年センター、適応指導教室「あやばに学級」